みやぎ観光振興会議委員の意見から想定される課題等及び取組の視点

資料２－２

（１）安全安心対策について

意見（要約）

- 感染対策を実施している事業者が貼りだせるようなステッカー・標示等を迅速に配布する。
- 県から説明のあった安心・安全の取組は，秋保・作並でも先行的に行おうと思っていた取組であるので，ぜひ早急にチェック表の作成等に取り組んでほしい。
- 安全対策は全国どこでもやっている。それをいかに安心につなげるか，マインドの部分が大事。
- 安全安心対策コストへの支援。安全安心対策（宮城県としての具体的な取組み）の情報発信が必要。
- 感染症対策をした上で営業している旨をSNSや宮城・山形・福島３県の顧客へのはがきによる案内でPRし，ようやくお客様が来てくれつつある。
- 安全安心対策を実施したものの，情報発信ができていない。
- 感染防止対策の徹底に向けた設備投資への補助など，受入態勢の整備が必要。
- 宮城は安全・安心だという取組を，デジタル等を活用し早急に対応すべき。
- 各施設等の新型コロナの安全対策について，圏域としてもっとＰＲしてはどうか。「新たなもてなし」について，みんなで考え，作っていくという取組みが必要。
- 感染症が発生してしまった場合にどのように対応していくのか具体化して示してほしい。気仙沼・本吉地域の医療体制が脆弱なのは否めない事実なので，地域の受け入れる方への対策も考えてほしい。
- 感染対策の基準や，イベント開催の判断指標を示す。
- 県民に安心感を与える対策をきちんと実施しているという情報を発信して欲しい。
- 今後コロナが再び発生した際にどのように対応するか検討をすべき。
- 安全・安心がキーワードだとすると，住んでいる人がそう思わなければならない。
- 空港としても安心の取組の設備投資や空港で発生した感染者の受入体制などの準備が必要。
- 観光バス三密を避けるため増便の必要性があり，補助制度など手厚い支援が必要。
- 防災と観光の視点，観光客受け入れのための安心・安全の可視化が必要。

課題・論点

- 安心安全対策を迅速に行う必要がある
- 安心・安全の可視化が必要
- 安全安心対策の情報発信が必要
- 安全安心対策の徹底に向けた設備投資の補助が必要
- 安全安心をデジタルを活用して対応していくべき
- 安全対策についてPRし，新たなおもてなしの取組が必要
- 感染症発生時の対応策が必要
- 感染対策の基準やイベント開催の判断指標が必要
- 再流行に備えた準備が必要
- 住んでいる人が安全安心だと思わなければならない

取組の視点

<u>安全安心対策・見える化</u>

【各圏域からのアイディア例】

（全体，仙南，仙台，大崎，栗原，登米，石巻，気仙沼・本吉）
〇安全安心対策の実施・可視化・情報発信等

（全体）
〇デジタルを活用した安全安心対策
〇三密回避のためのバス増便への補助

（仙南，仙台）
〇安全安心対策コスト・設備投資への支援

（仙台）
〇感染対策基準・イベント開催判断指標の策定

（石巻）
〇安全安心の可視化・圏域全体の情報発信

（気仙沼・本吉）
〇コロナ発生時の対応・地域の受入対策

（２）域内流動や地域資源の磨き上げについて

意見（要約）

- クラウドファンディング２割増しではインパクトに欠ける。企業側に負担を求めてもいいので，もっとインパクトのある設計にしてほしい。
- 朝方観光にシフトするべき。（景観，朝風呂，朝食，ブランチ）
- 地域から見たときに，仙台を重要なマーケットとして捉えるべき。
- 松島と比較し，石巻の強みは海産物等の「食（食べ物）」ではないか。
- 仙台七夕祭りなど，多くのイベントが中止になったが，再開あるいは別な形で実施できるよう支援を検討してほしい。
- 栗原地域は，もともと宿泊客が少ないので，観光コンテンツの充実を先に考えた方が，効果が大きいのではと考えている。
- 圏域の観光資源をどのように発信していくかが課題。
- 観光資源の原石はたくさんあるが，磨き上げが必要。
- 東松島市の他にはない特徴としてSDGs未来都市，「スポーツ健康都市宣言」や防災・観光教育施設などがあり，関係者が連携して取り組むことが必要。
- 小さな観光が豊富にあることが大事で，全員がプレーヤーとして一体となって取り組むことが必要。
- 教育旅行の関東から東北への方面変更など問合せが増えてきており，バス利用の際の三密回避のため台数増による経費増が見込まれることから，インパクトのある助成をお願いしたい。
- 近隣地域との連携により，観光客を周遊できるようにしたい。また，地元の人に地元の魅力を知ってもらえるような取組みが必要である。
- ＣＦ事業は，複雑で利用しづらく事業者の規模や情報発信力により差が出る可能性がある。割引券の発行等分かりやすい支援策にすべきである。
- 圏域から出られないということであれば，圏域内の移動が重視されてよいのでは。３０分から１時間の間で行き来できるような圏域内で完結する観光も大事と思う。
- コロナからの回復のため，まずは県内・国内の需要喚起から始めるべき。これまで海外に行っていた人が，今後は国内に目を向ける可能性がある。
- 県南と県北で交流するなど，県内全域に広げていくことが重要。
- 仙台市は、転出入者が毎年それぞれ４万人を超えている。転入者は新しい見込み客となる。転出した方は転出先で宮城県、東北を発信していただければ有効なピーアールとなる。
- 広域的に食材などをテーマに同時イベント開催などで観光客を呼んではどうか。
- 公共施設（博物館・美術館等）や公共交通機関への補助や無料化を実施し，街歩きを促す。
- 今後の観光戦略としては，着地施策を中心に構成するべき。
- 自転車の移動も多いことから，サイクルツーリズムを呼び込むべき。
- 無担保融資等はあるが，あくまで延命措置なので，バス事業に特化した支援が必要。
- 震災や今回のコロナの影響により借入金は増大しており，影響が長引いた場合，半年から１年後に事業が成り立っているのか心配。
- 県内や東北のお客様に対し，宮城の魅力を県や地元の人間がどんどんＳＮＳ等で発信するなどの話題造りが必要。
- 地元で田植え体験等，地元の方々が楽しめるような，地元の方々のモチベーションを上げていく取組みを続けていくと，他の地域や外向けの良いＰＲになるのでは。
- 地元の人が地域の魅力を知り，その魅力に対するシビックプライドを持つことで，一人一人が「観光マン」となるような機運を醸成する啓発活動を実施する。

課題・論点

- 地域の強みを活かした取組が必要（「食」など）
- イベント再開等の支援が必要
- 観光資源の情報発信が必要
- 観光資源の磨き上げが必要
- 観光資源を活かし地域が一体となって取り組むことが必要
- 県内・国内の需要喚起から始めるべき
- 県内の交流人口の拡大施策が必要
- 広域的な同時イベント開催など集客力アップの取組が必要
- 今後は着施施策を中心にするべき
- サイクルツーリズムの取組が必要
- 事業継続のための取組が必要
- 地元の人が地域の魅力を知り，発信することが重要
- 情報を集約する場が必要
- 体験型観光等が必要
- 地域の周遊型観光コースをターゲットに応じて商品化すべき
- 東北地域内を対象とした支援が必要
- 二次交通への対応が必要
- マイクロツーリズムのチャンス
- 体験型コンテンツの整備が必要
- 地域の魅力アップや職員のおもてなし教育が重要
- 旅行しやすい環境や雰囲気づくりが必要
- 観光機運の醸成

取組の視点

<u>県内流動促進・旅行客とのつながり強化</u>

【各圏域のアイディア例】

（全体）
〇中止イベントの再開等への支援

（仙南）
〇朝方観光へのシフト（景観，朝風呂，朝食，ブランチ）
〇手段としてのサイクルツーリズムの取組
〇観光ポータルサイトの作成による情報発信
〇蔵王の自然を活かした体験・「コト」観光

（仙南，気仙沼・本吉）
〇県南と県北の観光交流・ツアー造成

（仙台）
〇博物館・美術館等の公共施設や公共交通の無料化
〇地元住民によるSNS発信の取組
〇地元の人が観光マンとなるような機運醸成の取組

（大崎）
〇三密回避のためのバス利用への大幅な助成
〇地元の人に地元の魅力を知ってもらう取組
〇東北六県旅行への支援の取組
〇観光地への誘客の取組への支援（休前日の花火等）
〇観光のCM作成・放送

（栗原）
〇栗原地域の観光コンテンツの開発
〇圏域内で完結する観光の充実
〇田植え体験等地元のモチベーションが上がる取組
〇栗原のお酒を楽しみ知識を得るツアー造成

（登米）
〇クラウドファンディングの割り増し
〇観光の地域活動・まちづくりリーダーの養成
〇登米の風土マラソンと連動した農業体験や観光地への誘導・宿泊につながる取組

（石巻）
〇石巻の食（海産物）を活かした観光の取組
〇東松島市の「SDGs未来都市」，「スポーツ健康都市宣言」，防災観光教育施設を活かした観光の取組
〇「食」をテーマとした広域的なイベント開催
〇地域の観光スポットのコース化
〇二次交通を利用してもらえるコースづくり
〇地域の特性を活かした体験コンテンツ（ワカメ収穫等）
〇旅行しやすい雰囲気作りや機運醸成の取組（休暇の分散化等）
〇複数の航路の乗継の仕組の整備

仙台市からの年間４万人前後の転出者一人一人が観光マンとなり，外から宮城県に呼び込んでもらうような機運を醸成する啓発活動の取組が必要ではないか。
観光に関するポータルサイトを作成し，一体となった情報発信が必要。
新型コロナ以前のように他県からや，インバウンド等による誘客はリスクが高いので，「県内の人が県内で楽しむ」ということに力を入れたらよいと思う。
体験・「コト」を売る取組みが重要。近くの客が蔵王の自然環境の魅力を再認識してもらえるよう，発信していきたい。
販売・体験などの観光資源を掘り起こして，一体感のある県にするべき。
個々で観光や，地域活動，まちづくり活動する人が沢山いるが，個人単位での実現は難しいため，意見やアイデアを集約して，まとめて良いものを作り上げてくれるリーダーが必要ではないか。
栗原のお酒を栗駒山でキャンプをしながら楽しむ，宿泊を伴うようなイベントや，少人数で，栗原のお酒を飲んで一つ知識もつけて帰ってもらうようなツアーなども提案できれば良い。
地域の観光スポットなどをつなげ，ターゲットごとにコースを設け，その中で交通や宿泊施設を利用してもらうと良い。
東北六県内の旅行等を対象にした支援策があると良い。
登米市は二次交通の問題を抱えており，客に乗ってもらえるルートづくりが必要。
風土マラソン等のイベントに外国人も含め県外客の参加が相当数あるものの，イベント参加のみで終わってしまう。登米市産の食，飲が楽しめる，農業体験もできる観光コンテンツ等を造成し，参加客等の市内観光地等への二次誘導と宿泊者の増加につなげる取組が必要。
ピンチをチャンスに。今がマイクロツーリズムのチャンス。
観光需要の拡大のため，観光のＣＭを作成・放送していただきたい。
鳴子温泉で休前日に花火を上げる場合，誘客支援として県で支援できないか。
今までは，農業だけ，観光だけ，イベントだけでやっていたのを横に線をつないで一緒に自分事として，観光振興に取り組むことが必要。
体験型コンテンツ（ワカメの収穫や島巡り等）の整備が必要。
感染拡大防止とトレードオフが大事だが，来てくださいと言えない中で，どのようにして誘客するか。地域の底力として魅力アップや職員のおもてなし教育が重要と考える。
いざ観光に行こうとなったときに，心理的な壁（世間体）が気になる。地域も含めて旅行に行ってもいいという雰囲気や旅行しやすい環境づくりが必要。
島を観光資源と考えると，航路を乗り継ぎ移動できる仕組みはどうか。
コロナ禍において，旅行需要を高めていくには，受入側の地域とも連携した旅行や外出をしようといった観光機運の醸成が大事である。
大規模な旅館では，県内の宿泊客だけでは採算ラインを確保できないことから，関東方面からの宿泊客の誘客を進めていきたい。

（３）新しい価値観・新しい観光について

意見（要約）
「適疎」など印象的なフレーズを前面に出すのがよい。（快疎・安疎・楽疎など）
東松島のオルレについては，４月と５月でも一定程度の需要はあった。野蒜，宮戸八景等のオルレ中心に，三密を回避したコンテンツが好まれるのではないか。
いざ観光に行こうとなったときに，心理的な壁（世間体）が気になる。地域も含めて旅行に行ってもいいという雰囲気や旅行しやすい環境づくりが必要。
適疎の表現を工夫し，観光客へ訴求していく。松島などの密から疎へなど訴え足を延ばしてもらう。
中長期的視点に立って，５Ｇ環境整備への支援・補助を行う。
今後の取組としては，MaaSを活用していくべきだが，お客にとって利用しにくいものが多く，まだまだこれからだと思っている。
SDGsの指標を取り入れるべき。
今後同様の事態が発生した際に，国や県の支援を待ってというのではなく，今回の経験を生かして新しい観光のモデルをつくるべき。
密を回避したリモートワークや副業・兼業の拠点など，首都圏から地方へ流動する可能性があり，地域の一つのチャンスになり得る。そのために，きっかけをつくり，関係人口の構築が必要。
新しい生活様式でお客様をもてなすための施設の改修に対して支援する制度を設けてはどうか。
これからは他人との接点の少ない，限られた範囲での旅行が多くなることが予想されるが，栗原市は密集が少なく適地なのではないか。
新しい生活様式に対応した支援メニューの拡充をお願いしたい。
団体客や宴会客を取り込むのが難しくなっているので，対策を考えなければならない。
新型コロナウイルスの早期の収束を図り，アフターコロナの準備をして行かなければならない。
気仙沼・南三陸は，トレイルのルートも充実しているので，密を回避したアウトドアの個人のお客様向けの観光資源をもって，7月以降の対策につなげるのはどうか。
圏域にはアウトドアなど前向きなコンテンツもあると思うので，これらを生かして回復に向けて進むべき。
MaaSと関連付けて密にならない，混雑しないという安全・安心情報の共有化・ネットワーク化。
マイカーで来る個人のお客様が多いが，将来的にはバスの普及は不可欠。
スポーツレジャーはここ10年で最も伸びており，資源投下しマーケット化して行きたい。また，観光振興の為には消費者動向の分析やマーケットへの誘導が必要。
テレワークと家族単位の旅行需要をキーワードに，テレワーク及びワーケーションの観光地づくりを進めていくのはどうか。
健康を売りにしたワーケーションを推進したいが，鳴子温泉は，硫黄ガスにより電子製品等の劣化が早いので機器の更新費用がかかるので支援してもらいたい。

課題・論点
新しい観光の視点を取り入れるべき
新しい観光のモデルをつくるべき
ビジネスモデルの転換が迫られてる
新しい生活様式に対応した取組が必要
三密を避ける新たな観光資源の磨き上げ
MaaSの活用により利用者の利便性の向上が必要
テレワーク･ワーケーションの観光地づくりを進めてはどうか
5G等の情報通信環境が必要
情報の共有化･ネットワーク化が必要
将来的な二次交通の対応が必要
スポーツレジャーの消費者動向の分析やマーケットの誘導が必要
農業を活かした登米独自の観光コンテンツの造成
マイクロツーリズムで交流人口拡大の取組が必要
元に戻すのか，新しい視点を取り入れるのか課題
レスポンシブル(顧客責任)の新たな視点が必要
地域の強みを活かした地域マーケティングが必要

取組の視点
新しい価値観･新しい観光創出
【各圏域のアイディア例】
（全体） 〇新しい生活様式に対応した施設改修への支援 〇これまでのビジネスモデルの転換の取組
（全体，仙南，大崎） 〇テレワーク･ワーケーションの環境づくり
（全体，仙台） 〇5G環境整備への支援･補助
（仙南） 〇MaaSの利便性を高め，密にならないルートや安全安心情報の共有
（大崎） 〇スポーツレジャーの消費動向の分析やマーケットへの誘導
（栗原） 〇他人との接点の少ない密集をさけたコンテンツ開発
（登米） 〇農業大国登米の農業体験･農泊を活用したコンテンツ 〇登米市の強みを活かした地域マーケティング
（石巻） 〇野蒜･宮戸八景等のオルレを中心とした三密を回避したコンテンツの造成 〇学校などでの休暇分散化の推進 〇松島などから石巻地域へと観光行動を促す情報発信
（気仙沼･本吉） 〇コロナの経験を活かした新しい観光モデルの構築 〇新しい生活様式に対応した支援メニューの拡充 〇充実したトレイルルートを活かしたアウトドアの取組 〇家族単位･小規模グループでのミクロツアーの取組

登米市は農業大国なので，農業体験，農泊も含めて活用できれば，他地域にはない登米独自の観光コンテンツができるのではないか。
コロナの影響によりこれまでのビジネスモデルの転換が迫られている。
「マイクロツーリズム」として，仙台圏域内，宮城県内や東北＋新潟県の中で交流人口を増やして行くためにどうすれば良いのか。
まずは県内，東北圏内での域内観光を流通させる必要がある。
マイクロツーリズムの地元からのお客が戻ってきている。
宿泊券の購入者の８割程度は，県内のお客様だったため，まずは近場の観光客の誘致から始めることは有効である。
観光事業についても，新たなステージに入っており，大量輸送・大量消費でのマクロツアーでなく，家族単位・小規模グループでのミクロツアーがこれから注目されて行くことで小規模事業者もそれに対応する形を執れるのではないかと思う。
近場での観光需要をどうするかというのが取り急ぎの課題。
「観光産業の危機管理体制」について，このような状況下において，元に戻すだけで良いのか，新しい視点を取り入れて，関連産業との協調を図りながら進めるのが良いのか，今後の大きな課題と思っている。
お客に来てほしいと思う反面，密が回避できず，マスクをしていない方もいる。
小さい施設の場合，生活基盤と事業基盤が共有している部分がある。その場合，関東圏のお客様にも来ていただきたいが，観光の恐怖心があるのも事実だという声がある。
登米市は自然にあふれており，自然から商業施設への距離も非常に短く，キャンプやアウトドアに非常に適している地域。登米市の強みを活かした地域マーケティングが必要。

（４）関係人口について

意見（要約）
回復戦略は，「みやぎ絆むすび丸プロジェクト」などといった，絆を再構築するといったイメージがあるといいのではないか。
感染症対策をした上で営業している旨をSNSや宮城・山形・福島３県の顧客へのはがきによる案内でPRし，ようやくお客様が来てくれつつある。
密を回避したリモートワークや副業・兼業の拠点など，首都圏から地方へ流動する可能性があり，地域の一つのチャンスになり得る。そのために，きっかけをつくり，関係人口の構築が必要。
栗原市出身者（アンバサダー）やふるさと会の方々に，故郷への支援をお願いしたい。
新たに関係人口に取り組むため，企業の社会貢献活動，福利厚生，社員研修等の受け入れを進めたいので，行政の力を借りながらぜひ実現していきたい。
震災や災害等により崩壊したコミュニティの復活，地域の活力の再生などの取組が必要。
「ふるさと教育」，「郷土愛」を身につける必要があると感じており，ふるさと教育による郷土愛の植え付けが必要と考えている。
地元の人が地域の魅力を知り，シビックプライドを持つことで，一人一人が「観光マン」となるような機運を醸成する啓発活動を実施する。
東日本大震災では，それぞれのネットワークが強くなったが，コロナではネットワーク自体が失われたので，ネットワークの再構築が必要。
ステークホルダーが多い体験型観光や，コロナ禍によるワーケーションの環境整備により，交流人口や関係人口を増やす取組を実施すべき。
震災のボランティアなど，心理的なつながりによる関係人口にアプローチしたらどうか。

課題・論点

回復戦略は絆を再構築するというイメージが必要

交流人口や関係人口を増やす取組を実施すべき

関係人口に対する情報発信が重要

企業の社会貢献活動や社員研修といった関係人口の構築への取組

コミュニティの復活や地域の活力の再生が必要

住民へのふるさと教育により郷土愛を持つことが必要

ネットワークの再構築が必要

震災のボランティアなど，関係人口へのアプローチ

取組の視点

関係人口の拡大

【各圏域のアイディア例】

（全体）
〇コロナで失われたネットワークの再構築

（全体，仙南，石巻）
〇ワーケーションの環境整備

（仙南）
〇近郊の顧客への安全安心等の情報発信

（栗原）
〇栗原市出身者（アンバサダー）等による故郷支援
〇ふるさと教育による郷土愛の醸成の取組

（登米）
〇企業の社会貢献活動・福利厚生・社員研修の受入

（石巻）
〇震災のボランティアなどの関係人口へのアプローチ

（気仙沼・本吉）
〇首都圏からのリモートワークや副業・兼業の拠点化

（５）アドバンテージを活かす取組について

意見（要約）
朝ドラの収録がされるのでロケ地ツアーと農業体験を組み合わせたツアー造成も良い。
圏域では，三陸道の全線開通，おかえりモネの舞台になること，南三陸町の復興祈念公園がオープンするなど，プラスになることが多い。
三陸道の延長により，気仙沼と南三陸が近くなるため，圏域で協力し合って，何かできたらよい。
震災体験コンテンツの充実など東北・宮城の優位性を打ち出す取組が必要。
来年は東北ＤＣなので，プレＤＣ企画など，日本中から注目を浴び，取り上げてもらえるような情報発信が必要。
「駅から観タクン」「定期観光バス」「デジタルによる情報発信」など既存の情報の整理・発信のほか，県の「みやぎ応援ポケモンのラプラス」を活用できないか。

課題・論点

圏域にあるアドバンテージを生かす取組が必要

東北・宮城の優位性を打ち出す取組が必要

東北DCを活かした取組，情報発信が必要

ラプラス等を活用したプロモーションの展開

おかえりモネを活用したシティプロモーションの展開

取組の視点

みやぎのアドバンテージ（DC・復興）

【各圏域のアイディア例】

（仙台）
〇東北DCを控えたプレDC企画

（登米）
〇連ドラと農業体験の組み合わせ

（石巻）
〇ポケモンキャラクターを活用した取組

（気仙沼・本吉）
〇三陸道全線開通，NHK連ドラ等復興を活かしたツアー
〇震災体験など東北・宮城の優位性を打ち出した取組

（６）インバウンドの取組について

意見（要約）
これまでインバウンドに重きを置きすぎたので，手法を再考するべき。
インバウンドは，現状、非常に少ない。昨年，「Visit MIYAGI」に情報を初めて掲載したが，どのような結果になるか期待をしていたが，コロナの影響でダメになった。
先々のインバウンドの対象として，さらに国際交流を絶やさないという観点からも，現在生活に困窮している外国人留学生を対象にしたツアー企画などがあればよい。
インバウンドも含めて，広域間連携を強力に推し進めることが大切。三陸だけではなくて，内陸の登米市，栗原市それから岩手県南部の方々と広域で連携して観光商品の造成をして行く。発信も一緒にして行くことが肝心だと思っています。
欧州のボート会場はリゾート化しており，オリンピック出場国の受入，支援にとどまらず，長沼をリゾート化する夢があってもいい。
海外からの誘客には，現地の安心の取組（例えば病院のリスト）等を周知すべき。
空港の再開に向け，移動及び宿泊に向けた不安の払しょくを行うことが必要。
外国人の目線でも，安全に移動し過ごせるかが重要。ガイドラインは，最初から海外の情報や国際基準を取り入れながら策定するべき。
短期的には知名度のあるキラーコンテンツで国内流動を戻し，中長期的にはインバウンドなどは，より深い体験型観光等の取組が必要。

課題・論点

インバウンドの取組の視点は，これからも必要

インバウンドについて，今後の取組手法の再検討が必要

インバウンドも含めた広域間連携の強力な推進

海外客へ安心の取組の情報発信が必要

空港の再開に向け来訪者等の不安払しょくが必要

国際基準を取り入れた安心安全ガイドラインを策定するべき

中長期的にインバウンドを見据えたコンテンツが必要

取組の視点

制限解除を見据えた国外誘客

【各圏域のアイディア例】

（全体）
〇国際基準を取り入れたガイドライン作成
〇インバウンド向け安心の取組発信（病院リスト等）
〇深い体験ができる観光コンテンツ造成

（仙南）
〇生活に困窮している外国留学生向けツアー

（登米）
〇オリンピック出場国受入地の長沼のリゾート化

（気仙沼・本吉）
〇インバウンド向け広域連携による観光商品造成